

平成 27 年 4 月 1 日  
東京医科大学

**東京医科大学に株式会社ノエビアによる  
産学連携講座「神経皮膚連携分子医学講座」開設**

平成 27 年 4 月 1 日より、新たな産学連携講座として、「神経皮膚連携分子医学講座」が設置されました。本講座では、薬理学分野で最近発見された新たなアルツハイマー病発症抑制因子が主として皮膚から分泌されることに注目して、神経変性疾患研究を専門とする本学の薬理学分野と皮膚機能研究にノウハウを有するノエビア研究部が共同して神経機能と皮膚機能の連関に関する研究を行います。高齢化社会を迎えた我が国ではアルツハイマー病などの神経変性疾患の克服は喫緊の解決されるべき課題となっております。

本講座の研究が将来その克服の一助になることを目指します。

## <講座の概要>

1. 設置大学：東京医科大学 東京都新宿区新宿 6-1-1  
学 長：鈴木 衛
2. 講 座 名：神経皮膚連携分子医学講座
3. 寄 付 者：株式会社ノエビア  
神戸市中央区港島中町 6-13-1 代表取締役社長 海田 安夫
4. 設置期間：2015 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日
5. 教 員 名：松岡 正明 主任教授（薬理学分野主任教授併任）  
客員教授 2 名、 研究員 1 名

## <研究目的>

発生段階で神経機能と皮膚機能には密接な関係が存在することはよく知られた事実です。さらに、成体となっても、神経と皮膚には有機的な機能連関が存在する可能性が示唆されています。

本学薬理学分野では 2013 年、主として皮膚組織から分泌され、神経組織で機能を発揮する新たな皮膚由来神経栄養因子 CLSP を発見しました。この因子は生理的には神経機能を維持することに関係し、その老化に伴う機能不全がアルツハイマー病などの神経変性疾患の発症に関係する可能性があることが分かりました。

本講座では、皮膚機能の基礎研究を行っているノエビア研究部と神経研究を行う薬理学分野教員が連携し、皮膚神経機能連関の観点から、アルツハイマー病に代表される神経変性疾患の発症と皮膚機能の関連性をテーマとした研究を行います。

## ＜背景＞

高齢化社会を迎えた我が国ではアルツハイマー病を代表とする神経変性疾患の克服が重大な医学上の課題となっています。しかし、近年、多数のアルツハイマー病新薬の臨床治験が失敗に終わっていることから想像されるように、必ずしも現行の病態仮説に基づいた神経変性疾患研究は順調に進捗しているとは言い難い現状があります。

本講座では、神経機能と皮膚機能と関連性に基づいた新たな視点から、神経変性疾患の発症メカニズム研究を遂行します。

## ＜問い合わせ先＞

「研究関連」

東京医科大学 薬理学分野 松岡 正明

TEL: 03-3351-6141 (内線 325) FAX: 03-3352-0316

Email: [pharmac@tokyo-med.ac.jp](mailto:pharmac@tokyo-med.ac.jp)

「広報関連」

東京医科大学 経営企画・広報室 日高・田崎

TEL: 03-3351-6141 (代表)

「株式会社ノエビアホールディングス」

東京都中央区銀座 7-6-15 広報・IR部 森山・後藤

TEL: 03-5568-0305 FAX: 03-5568-0441」